

令和元年度 教員地域貢献活動支援事業(協働型) 成果報告書

課題名	「まち保育」の観点から取り組む保育・教育施設の共助構築に向けた検討・実践	
研究者	代表教員氏名	国際教養学部 准教授 三輪 律江
	事業ユニットの構成(代表者除く)	
提案者	横浜市神奈川区こども家庭支援課	
課題	<p>幼児期の子どもたちが家族と離れ過ごす保育・教育施設が、非常時の対策に取り組むためには、日常的な地域との関係づくりが不可欠である。日常業務に追われる中、施設自らが無理のない範囲で地域との関係を構築していくための意識啓発、地域とともに園児・保護者を巻き込んでいける体制づくりや手法論を検討、実践する。</p>	
課題解決の方法	<p>神奈川区では、2018年度「保育・教育施設防災対策検討会」を立ち上げ、保育・教育施設が自助・共助の視点で防災対策に取り組むための方策を検討し、「保育・教育施設向け+αの防災ガイド」などの策定を図ってきた。しかし、そもそもの保育・教育施設と地域(自治会・町内会・企業など)との関係性が十分に構築されておらず、結果的に地域と連携した防災対策が行われていないということが課題の一つとして明らかになってきた。</p> <p>一方で、日常業務に追われる保育・教育施設のスタッフが地域との連携を進めることは容易くない。連携すべき地域とは誰を指すのかといった地域のステークホルダの理解、地域との連携がなぜ必要かといった動機付け、どのようにすれば進められるのかなど、施設自らが無理のない範囲で地域との関係を構築していくための意識啓発、地域とともに園児・保護者を巻き込んでいける体制づくりや、施設自らができる手法論を検討していくことが求められる。</p> <p>事業代表者である三輪は、保育・子育て支援実践者、建築計画、都市計画、環境工学、防災、臨床心理学といった多様なメンバーと共に、特に乳幼児期の子ども達が親元を離れて集まる「保育施設」に注目し、乳幼児の子どもが地域に見守られながら育っていくための挑戦として「まち保育」という新しい概念を提示し、まちと保育を取り巻く課題解決の糸口について、青葉区の保育所と共に『保育所×地域つながり力アップマップワークショップ』という実践を重ね、効果を確認してきた(『まち保育のススメ(萌文社、2017.5)』)。そして、まち保育の試みを通じた地域とつながる糸口、「防災」と「共助」の接点の拡がりについての効果も示唆を得てきた。</p> <p>そこで、本事業ではこれらの実績から、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「まち保育を通じた保育・教育施設の地域連携の在り方勉強会」の開催 ②①の拡大版として「施設自らができること、やりたいことについて話合う「まち保育の理解を踏まえた共助力強化ワークショップ」の開催 ③区内の施設への定期的な伴走支援 <p>をサイクルとして行うことで、身の丈にあった手法を施設自らが検討し防災対策を日常的な地域連携の中でジブンゴトとしていく方法を検討する。またこれらを普及コンテンツとなるような記録媒体として作成する。</p>	
研究実績報告(スケジュールと内容・成果)	<p>①神奈川区下の保育園の園長会の日時に合わせ、『「まち保育」の理解と防災力強化 連続講座～保育・教育施設の地域連携の在り方を考える～』の研修会を実施した。年3回開催。毎回約60名程度参加。</p> <p><第1回>6月14日(金)13:00～15:00「非常時のために平時からすべきこと:「まち保育」からの理解」 こどもがまちで成長し、大人も地域も成長していくためには何が求められているのか。ここではまず「まち保育」という概念の理解と、それを防災力に活かせる実践例を座学として学び、その後、個々の園でもできそうな小さなアクションについて検討した。</p> <p><第2回>10月24日(木)13:00～15:30「災害リスクの理解といざという時の小さなアクションを考える」 神奈川区には土砂災害、住宅倒壊や火災、津波といった多様な災害リスクが存在し、エリアによって異なりそれぞれの対応が異なる。ここではそれらの理解と共に、それぞれの園の規模別、リスク別(立地別)に、各施設が実施している非常時への対応策の共有、小さなアクションを話し合った。</p> <p><第3回>2月19日(水)13:00～15:30「学びを次に活かす/皆でアイデアのタネを広げてみたら」 後述する伴奏支援した2園からの報告。さらに今年度、各の園で実践してみた小さなアクションについて、リスク別(立地別)グループで共有。</p> <p>講座には、これまでの実績から「まち保育研究会」のメンバーやまち保育実践を講師に迎えて実施した(企画・当日の運営は三輪および横浜市大、会場確保や各施設への広報等は神奈川区役所が担当)。</p> <p>②区内の施設への定期的な伴走支援として、以下2園に対し定期的な会合(2ヶ月に1回)を通して、取り組みの実践サポートを行った。</p> <p>【白幡幼稚園】通園ルートや小学校入学後の通学路の危険性等の把握のため、小学校にも協力要請を得てマップを作成、まち歩きワークショップ等を企画。</p> <p>7月26日(金)第1回打合せ、8月26日(月)第2回打合せとガリバーマップ地図記入作業1、10月28日(月)第3回打合せとガリバーマップ地図記入作業2、11月27日(水)ガリバーマップ設置・通園路記入作業、12月24日(火)第4回打合せ→保育園の先生たちでルート検討のために下見まち歩き 1月14日(金)第5回打合せ、3月30日(月)第6回打合せ</p> <p>【いずみ反町保育園】お散歩マップの見直しと散歩ルートの多重化。元防災拠点の会合に参加。災害時に支援・連携してもらえ人や周辺施設との関係構築のための地域交流まち歩きワークショップ等を企画。</p> <p>7月25日(木)第1回打合わせ、10月25日(金)第2回打合わせとガリバーマップ地図記入作業、12月10日(火)第3回打合わせ</p> <p>11月 青木小学校での防災訓練への参加、2月4日(火)下見まち歩き、2月12日(水)第4回打合わせ、3月30日(月)第5回打合せ</p> <p>※いずれも3月予定のまちあるきWSは中止</p> <p>③これらの取り組みをビデオ等に編集・記録化した。また講座開催に合わせてアンケート票による意識変化の動向調査を行った。</p>	
10 連携機関(提案者以外)	まち保育研究会(主に横浜国立大学 稲垣景子准教授、大妻女子大学 谷口新教授)	

得られた効果及び自己評価

・①の全体研修を経て、各園ではお散歩マップの見直し、地元の防災組織の会合への参加、防災訓練などへ参加等、小さなアクションが実施されている。
・同じリスクを共有する(すなわち別法人でも近隣に立地し合う)園の横のつながりづくりが始まっている。
・講座と伴走の様子は多くのメディアにおいて継続的に取り上げられ、神奈川区担当課が市庁内でのチーム横浜賞(横浜市職員行動基準実践表彰)で副市長賞を、三輪は横浜市立大学令和元年度学長奨励賞を受賞した。
<連続講座>
神奈川新聞(6月18日)
<https://www.kanaloco.jp/article/entry-175429.html>…
タウンニュース(6月20日)
<https://www.townnews.co.jp/0117/2019/06/20/485901.html>…
東京新聞(6月21日)
<https://www.tokyo-np.co.jp/.../list/2.../CK2019062102000163.html>
タウンニュース神奈川区版 2019年10月31日
<https://www.townnews.co.jp/0117/2019/10/31/503961.html>…
タウンニュース神奈川区版 2020年2月27日
<https://www.townnews.co.jp/0117/2020/02/27/519332.html>
<区内保育園への伴走支援の様子>
神奈川新聞 2019年11月12日号
<https://www.kanaloco.jp/article/entry-208076.html>…

今後の課題と展開

全体研修を経て各園では、自らお散歩マップの見直し、地元の防災組織の会合や防災訓練などへ参加等といった小さなアクションが多数実施されていった。また同じリスクを共有する(すなわち別法人でも近隣に立地し合う)園の横のつながりができ始めている。さらに講座と伴走支援の様子は多くのメディアに継続的に取り上げら注目を浴びている。今後の展開としては、講座の継続と伴奏支援をしながら、同じリスクを共有する横のつながりの強化とそのつながりの日常性の創出、地域組織との関係の深化、保護者等の巻き込み方への工夫等を進める予定である。

研究発表(投稿準備中、投稿中、発表予定を含む)

こども環境学会2020年度長野大会でのポスターセッション投稿、発表予定

研究成果による知的財産権の出願・取得状況

知的財産権の名称	発明者名	権利者名	知的財産権の種類、番号	出願年月日(和暦)	取得年月日(和暦)
該当なし					